

# フィールド風

(現場)からの

宮田守男

5月中旬、松本信用金庫の顧客を対象とした「東京タワーとシンフォニー東京湾ランチクルーズでの優雅なひととき」のふれあい親

睦の旅に参加する。今年も、各班300名、総参加者1500名の募集だが、瞬間に募集定員に達する人気があった。

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると2040年、全ての都道府県で65

歳以上の高齢者世帯のうち一人暮らしが占める割合は3割を超える。東京都は5割近い。朝、目を覚ましても「喋る相手」のいない家。それがやがては日本の普通になっていく。近年、視聴率を稼ぐテレビ番組は、大家族が「よく喋る」内容だ。今回

## 限りある人生だからこそ、旅に出かけ、喋る楽しさを覚えよう

も参加者は、旅行中良くしゃべり続けた。積極的な参加は、人それぞれの営みを豊かにしているのだと実感した旅でもあった。東京は何度も訪れた場所だが、記憶の曖昧な自分に苦笑いしてしまう。

ふと「鶴の恩返し勉強法」を思い出す。脳科学者の茂木健一郎さんが、短期間で忘れてしまう記憶を長期間定着するために、声を出して読みながら反復し書くことが有効と提唱している。黙って旅するより「よく喋る」旅は、本当に楽しかった。博覧強記という言葉がある。「広辞苑」では、「ひろく古今・東西の書物を見て、物事を覚えていける事」と説明している。限りある人の寿命だからこそ、旅に

出る事をためらってはいけない。5月上旬から売り出された東京2020年オリンピック・パラリンピック競技の公式チケットの話題で、開会式のAチケットは、30万円だが当然チャレン

ジするとの話で盛り上がる。運よくチケットが当選しても、交通は、宿泊は、この心配は、宝くじで高額当選したら、の夢を描くのと同じだな、とほほ笑んでしまう。長野冬季オリンピックでも、チケット販売時には、輸送体制も宿泊計画も未熟だったかと思いつく。

当時流行った記念ピンも、東京大会では驚く程に多彩で数え切れない程の種類が販売を予定されている。熱狂的に収集できた当時が、本当に良かったのだと懐かしく思い出す。令和になってから、

初めての旅でのお土産は、何故か令和の文字が入りが気になり、購入してしまふ。ことわざにも「起きて半畳、寝て一畳」がある。欲張らない、身の丈にあっ

た暮らしをシンプルな生き方で楽しみたいものである。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)



東京オフィシャル・ショップに日毎に関心が高まっている